

四月の御教え

神は、体の毒を日に日に大便小便で取って下さる。

……「天地は語る」第二十七条……

解説

この御理解は「食物はみな、人の命のために天地の神が造り与えて下さるものである」との御教えと、対になります。

私達人間は、食物を摂取し、栄養分を得て、不要物や毒素を、大小便として排泄する働きによって生きていくことが出来るのでありますが、それを、単なる生理現象と捉え、便所なども『ご不浄』などと言い“汚いもの”としか認識されていかなかった時代にあつて、教祖様は、「食物はみな、人を生かすため天地の親神様のお与え下さった賜物であり、その栄養を吸収し、体に不要な物を大小便として排泄させて頂く事」を「神様の尊いお働き」として認識しておられたのであります。

私はこの御教えを頂くにあたり、かつて青年期に、本部広前にて、前教主四代金光様から「お便所は、私達の大小便を受けて下さるところだから、有り難くお礼を申さねばなりません」と御理解頂いたことが懐かしく有難く思い起こされるのであります。